

斑点米カメムシ類の発生量が多い

～農道・畦畔、休耕田などの除草の徹底を～

1. 現在までの発生状況

6月2～3半旬の巡回調査（40地点）における畦畔での斑点米カメムシ類のすくい取り数（50cm幅、40回振）は3.4頭で過去3か年平均の1.5頭より多く、発生地点率は38.5%で同32.5%よりやや高かった。そのうち、アカスジカスミカメ（以下、アカスジ）のすくい取り数は2.2頭で同1.2頭より多く、発生地点率は33.3%で同26.5%よりやや高かった。アカヒゲホソミドリカスミカメ（以下、アカヒゲ）のすくい取り数は1.1頭で同0.3頭より多く、発生地点率は25.6%で同13.7%より高かった（表-1）。

同調査における畦畔雑草の生育状況別のすくい取り数は、「除草しているが、出穂しているイネ科雑草がある」や「除草がされていない」が、「除草が徹底されている」や「除草しているが、新葉が伸びている」と比較して多い傾向だった（表-2）。

予察灯（6地点）における総誘殺数は、アカスジが6月1半旬から3半旬にかけて急増し、6月3半旬までの総誘殺数は300頭（同年28.7頭）で多かった（図-1）。同期間におけるアカヒゲの総誘殺数は52頭（同年37.8頭）でやや多かった（図-2）。

6月13日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高い、降水量はほぼ同年並と予報されている。

以上のことから、畦畔などに出穂しているイネ科雑草があるほ場を中心に斑点米カメムシ類の次世代の発生量が多くなると予想されることから、以下の防除対策を行う。

2. 防除対策

- 1) 農道・畦畔、休耕田などにおいて出穂しているイネ科雑草がある場合は、直ちに除草を行う。
- 2) 現在、除草が徹底されている場合でも、稲が出穂する15～10日前まで継続して除草を行い、イネ科雑草が出穂しない管理に努める。
- 3) 水田畦畔刈り込み代用剤を散布すれば、40～50日の抑草効果が期待できる。

3. 資料

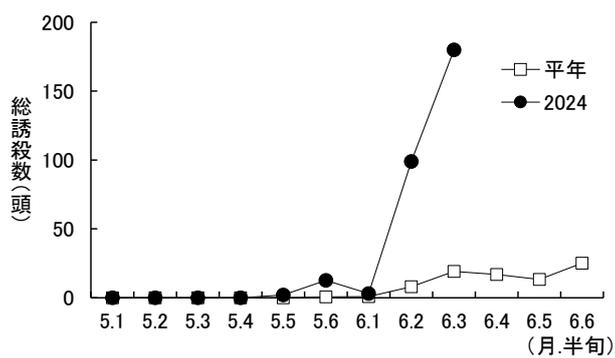
表-1 畦畔での斑点米カメムシ類のすくい取り結果（6月2～3半旬）

	斑点米カメムシ類		アカスジカスミカメ		アカヒゲホソミドリカスミカメ	
	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)
2024	3.4	38.5	2.2	33.3	1.1	25.6
過去3か年平均	1.5	32.5	1.2	26.5	0.3	13.7
概評	多	やや多	多	やや多	多	多

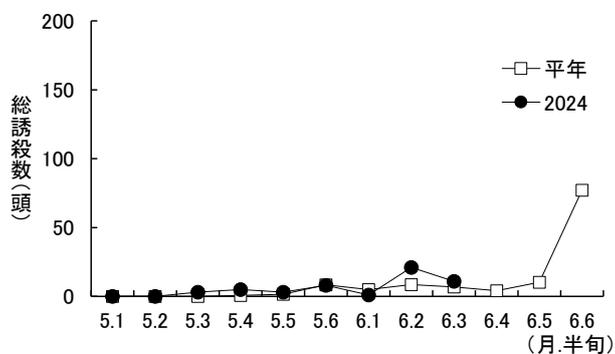
表-2 畦畔雑草の生育状況別のすくい取り数（6月2～3半旬）

雑草の生育状況	雑草生育状況別地点率(%)	斑点米カメムシ類(頭)*	アカスジ(頭)	アカヒゲ(頭)
除草が徹底されている	17.5	0	0	0
除草しているが、新葉が伸びている	50.0	0.30	0.15	0.15
除草しているが、出穂しているイネ科雑草がある	25.0	7.80	5.50	1.90
除草がされていない	7.5	15.33	8.67	6.67

*アカスジ、アカヒゲ以外の種も含まれる



図－1 予察灯(6地点)におけるアカスジカスミカメの総誘殺数の推移



図－2 予察灯(6地点)におけるアカヒゲホソミドリカスミカメの総誘殺数の推移

【 問合せ先 】

秋田県病虫害防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>